

エコアクション21 環境経営レポート2022

～本当の空と豊かな自然を次世代に～



東北江南株式会社

期間：2022年5月～2023年4月



発行日 2023年7月15日
次回発行予定日 2024年7月18日

目 次

■ 環境経営方針	3
■ 会社概要	4
■ 認証・登録の対象組織・活動	5
■ 環境経営システム実施体制	6
■ 中長期環境経営目標	7
■ 環境経営目標の実績	8
■ 環境経営計画の取り組み結果と その評価、次年度の取り組み内容	9・10
■ 環境への主な取り組み	11・12
■ 環境関連法規等の遵守状況確認及び 評価の結果並び違反、訴訟等の有無	13
■ 代表者による全体の評価と見直し	14

環境経営方針

【環境理念】

当社は、智恵子抄の故郷、安達太良山のふもとに位置し、恵まれた自然環境の中で、プラスチック、ゴム等の加工製品を製造販売する事業活動を行っています。

このかけがえのない自然との共生、調和を目指し、これからも「本当の空と豊かな自然を次世代に」継承するため、自主的、積極的、そして継続的に環境保全活動を推進します。

【行動指針】

エコアクション21に準拠し構築した環境経営システムに基づき、全員参加による環境管理を推進し、地球環境の改善に取り組むことで、より効率的な生産活動につなげていきます。

(1) 資源、エネルギー等の効率的な活用

製品ごとに最適な生産方法を策定し、それに基づく生産の効率化により、水資源や電気・化石燃料等の消費による環境への負荷、資源枯渇等を認識し、省資源、省エネルギーの推進を図ります。

(2) 廃棄物発生量の抑制と再資源化の推進

廃棄物発生抑制や不要物の分別、再資源化を推進し、廃棄量の最小化と適正処理を進めることで、材料ロスを低減し低コストでの生産を目指します。

(3) 化学物質等による環境汚染の未然防止

化学物質類の購入、使用、廃棄等にあたって、製品安全データシート SDS (MSDS) を活用し、適正管理・運用等による環境汚染の未然防止に努めます。

(4) 環境関連法規等の遵守

事業活動に係る環境関連法規、条例、協定等、及び当社が受入を決めたその他の要求事項を遵守します。

(5) 全員参加による地球環境保全の実践

すべての社員が環境問題の現状や環境経営の意義、組織の環境経営方針を理解し、自ら積極的に実践するための周知を行います。また、よき企業市民の一員として、社会や地域貢献活動に努めます。

2006年 5月 1日制定

2019年 5月 7日改定

東北江南株式会社

代表取締役 遠藤 敏晶

会社概要

1. 事業所名及び代表者名

東北江南株式会社
代表取締役 遠藤敏晶

2. 所在地

福島県二本松市小沢字柳原 72-4

3. 設立

1992年5月25日

4. 事業内容

工業用ゴム・プラスチック製品の製造及び販売

5. 環境保全関係の責任者及び担当者

環境管理統括責任者 遠藤敏晶
環境管理責任者 遠藤隆雄

6. 連絡先

TEL 0243-61-3491 担当：環境管理責任者 遠藤隆雄
FAX 0243-53-2770
URL <https://t-kounan.co.jp>
MAIL info@t-kounan.co.jp

7. 事業規模

資本金	1000万円
従業員数	279名(男173人・女106人)(2023年6月)
床面積	本社工場 841㎡
	第二工場 1013㎡
	第三工場(クリ-ル-ム/食堂) 351㎡
	第四工場 1013㎡
	第五工場 1273㎡
	第六工場 851㎡
	第七工場 892㎡
	第八工場 1014㎡
売上高	41億7228万円
生産高	470.2t

認証・登録の対象組織・活動

当社の全組織、全活動を対象とします。

登録組織名： 東北江南株式会社 本社

活動： 工業用ゴム・プラスチック製品の製造及び販売

エコアクション21

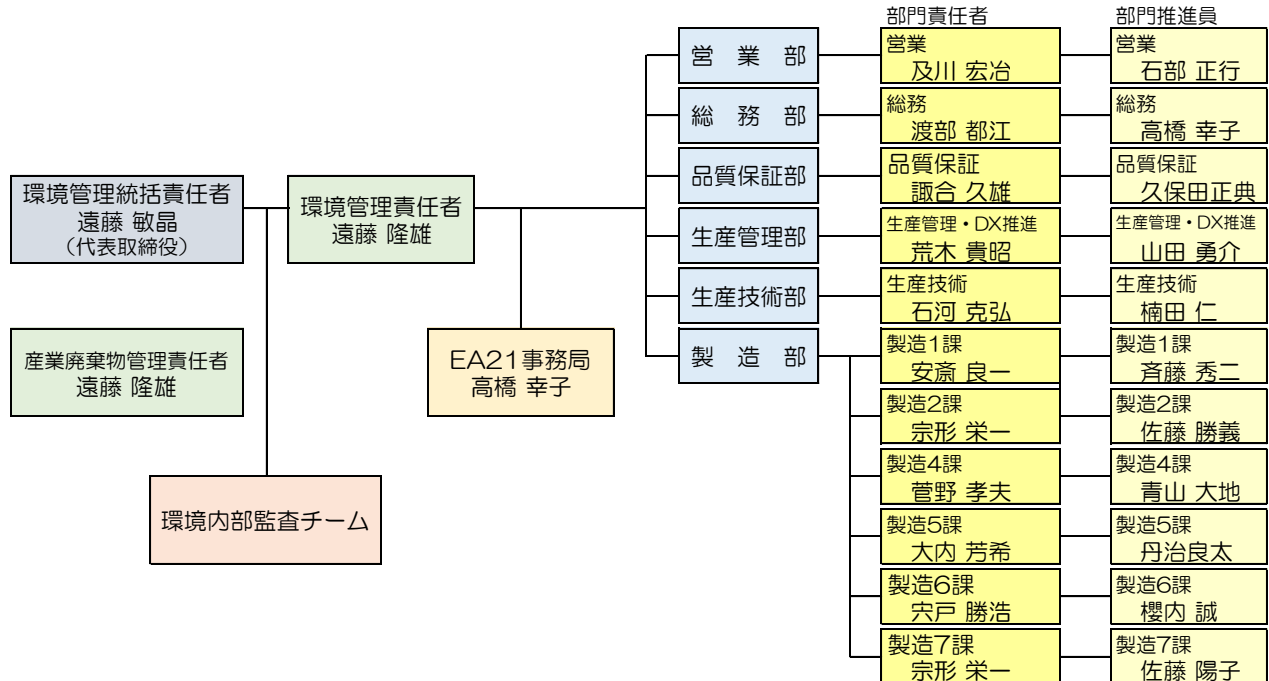
認証登録の状況 : 認証番号 0001192
 : 認証登録日 2006年12月13日
 : 更新登録日 2022年12月13日

その他認証

ISO9001 : 認証番号 02725-2015-AQ-KOB-JAB
 : 認証登録日 2015年6月26日
 : 更新登録日 2021年6月27日

エコアクション21実施体制

2006年05月01日 作成
2023年05月01日 改訂



	役割・責任・権限
環境管理統括責任者 (代表取締役)	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 実施体制を構築し環境管理責任者を任命 経営における課題とチャンスの整理 環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 環境経営目標・環境経営計画書を承認 代表者による全体の評価と見直しを実施 環境経営レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理 環境関連法規等の取りまとめ表を承認 環境経営目標・環境経営計画書を確認 環境経営活動の取組結果を代表者へ報告 環境経営レポートの確認 環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 訓練の企画・実施
EA21事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 環境経営活動の実績集計 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 環境経営レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付） 訓練記録の作成
部門責任者	<ul style="list-style-type: none"> 自部門における環境方針の周知 自部門の従業員に対する教育訓練の実施 自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
部門推進員	<ul style="list-style-type: none"> 部門責任者の補佐
環境内部監査チーム	<ul style="list-style-type: none"> 環境に関する内部監査の計画・実施・報告 EA21の環境活動への取組が適正に行われているかの確認 監査計画の立案と監査結果の報告
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 決められたことを守り、自主的・積極的に環境経営活動へ参加

中長期環境経営目標

No.	環境目標	単位	2021年実績 (基準年)	年度目標				
				2022年目標 (1%削減)	2023年目標 (2%削減)	2024年目標 (3%削減)		
1	二酸化炭素排出量の削減	CO2排出量の削減	kg-CO2	(1,714,693)	(1,697,546)	(1,680,399)	(1,663,252)	
			原単位 (kg-CO2/万円)	4.02	対基準年原単位 3.98 (▲1%減)	対基準年原単位 3.94 (▲2%減)	対基準年原単位 3.90 (▲3%減)	
		内訳	購入電力	kg-CO2	(1,603,567)	(1,587,531)	(1,571,496)	(1,555,460)
				原単位 (kg-CO2/万円)	3.76	対基準年原単位 3.72 (▲1%減)	対基準年原単位 3.68 (▲2%減)	対基準年原単位 3.65 (▲3%減)
		化石燃料	kg-CO2	(111,125)	(110,014)	(108,902)	(107,791)	
			原単位 (kg-CO2/百万円)	26.07	対基準年原単位 25.81 (▲1%減)	対基準年原単位 25.55 (▲2%減)	対基準年原単位 25.29 (▲3%減)	
		電力消費量	kWh	(3,508,900)	(3,473,811)	(3,438,722)	(3,403,633)	
			原単位 (kwh-CO2/万円)	8.23	対基準年原単位 8.15 (▲1%減)	対基準年原単位 8.07 (▲2%減)	対基準年原単位 7.98 (▲3%減)	
		燃料消費量	灯油	ℓ	970.0	/	/	/
			LPG	m3	433.3			
ガソリン	ℓ		47,325.5					
軽油	ℓ		2,614.5					
2	廃棄物排出量の削減	紙の使用量	kg	(4,990)	(4,940)	(4,890)	(4,840)	
			原単位 (kg/百万円)	1.17	対基準年原単位 1.16 (▲1%減)	対基準年原単位 1.15 (▲2%減)	対基準年原単位 1.13 (▲3%減)	
		廃棄物排出量 (廃プラ、廃油等)	kg	(339,441)	(336,047)	(332,652)	(329,258)	
			原単位 (kg/百万円)	79.65	対基準年原単位 78.85(▲1%減)	対基準年原単位 78.06(▲2%減)	対基準年原単位 77.26(▲3%減)	
3	水道使用量の削減	上水使用量	m3	(4,230)	(4,188)	(4,145)	(4,103)	
			原単位 (m3/千万円)	9.92	対基準年原単位 9.82 (▲1%減)	対基準年原単位 9.72 (▲2%減)	対基準年原単位 9.62 (▲3%減)	
4	化学物質使用量の管理	化学物質関連法令の遵守、適正管理	—	低有害化学物質への転換				
5	製品への環境配慮	不良品を減らし廃棄する材料を削減する	社内不良発生率 0.122%	生産件数に対し社内 不良発生率を 0.121%以内とする	生産件数に対し社内 不良発生率を 0.120%以内とする	生産件数に対し社内 不良発生率を 0.119%以内とする		
6	社会貢献活動の推進	工場内緑化及び美化活動の推進	—	工場周辺の清掃活動				
◇No.4と6は基準年度の設定は行っていません。								
*1 電力のCO2排出係数は、東北電力の2020年度の調整後排出係数0.457kg-CO2/kWhを使用しています。								
*2 原単位は、実績÷売上額で算出しています。								
*3 評価欄：○は達成、×は未達								
*4 中期環境経営目標を第8工場増築、増産に伴い、見直しを実施した								

環境経営目標の実績 (期間：2022年5月～2023年4月)

No.	環境目標		単位	2021年 実績 (基準年)	2022年			コメント	
					目標 (1%削減)	実績	評価		
1	二酸化炭素排出量の削減	CO2排出量の削減	kg-CO2	(1,714,693)	(1,697,546)	(1,564,093)	○	各工場で省エネに取り組んだ結果、電気使用量を大幅に削減することができ、CO2排出量も削減することができた。	
			原単位 (kg-CO2/万円)	4.02	対基準年原単位 3.98 (▲1%減)	対基準年原単位 3.75 (▲6.72%減)			
		内訳	購入電力	kg-CO2	(1,603,567)	(1,587,531)	(1,455,951)	○	電力料の高騰に伴い、各工場ではエアコンや機械設備、照明など省エネに取り組んだ結果、昨年の電力使用量より大幅に削減することができた。
				原単位 (kwh-CO2/万円)	3.76	対基準年原単位 3.72 (▲1%減)	対基準年原単位 3.49 (▲7.18%減)		
		化石燃料	kg-CO2	(111,125)	(110,014)	(108,142)	○	ガソリン以外の化石燃料の使用量が増加したが、ガソリン使用量を大幅に削減したことで目標を達成することができた。	
			原単位 (kg-CO2/百万円)	26.07	対基準年原単位 25.81 (▲1%減)	対基準年原単位 25.92 (▲0.57%減)			
		電力消費量	kWh	(3,508,900)	(3,473,811)	(3,185,888)	○	電力料高騰に伴い各工場で省エネに取り組んだ結果、昨年の電気使用量より大幅に削減することができた。今後も継続して取り組んでいく。	
			原単位 (kg-CO2/万円)	8.23	対基準年原単位 8.15 (▲1%減)	対基準年原単位 7.64 (▲7.16%減)			
		燃料消費量	灯油	ℓ	970.0	/	1,374.0	/	
			LPG	m3	433.3		453.4		
ガソリン	ℓ		47,325.5	43,805.2					
軽油	ℓ		2,614.5	3,667.4					
2	廃棄物排出量の削減	紙の使用量	kg	(4,990)	(4,940)	(4,990)	×	廃棄物の分別を徹底することで、PVCやPP、POM他の廃プラを産廃ではなく有価物として排出することができた。今後も端材管理や分別を徹底することで産廃排出量の削減に努めていく。	
			原単位 (kg/百万円)	1.17	対基準年原単位 1.16 (▲1%減)	対基準年原単位 1.20 (2.56%増)			
		廃棄物排出量 (廃プラ、廃油等)	kg	(339,441)	(336,047)	(275,929)	○	また、紙の使用量については裏紙使用や両面コピー等対応していたが目標を達成することができなかった。今後も継続して紙の使用量削減に努めていく。	
			原単位 (kg/百万円)	79.65	対基準年原単位 78.85 (▲1%減)	対基準年原単位 66.13 (▲16.97%減)			
3	水道使用量の削減	上水使用量	m3	(4,230)	(4,188)	(4,247)	×	切削機械の増設に伴い、機械に投入する水の使用量が増加した。機械に投入する水以外で節水できないか検討し、全員で取り組んでいく。	
			原単位 (m3/千万円)	9.92	対基準年原単位 9.82 (▲1%減)	対基準年原単位 10.18 (2.6%増)			
4	化学物質使用量の管理	有害化学物質の使用量・保管量・使用方法を把握する	—	低有害化学物質への転換	メタノールを変性アルコールへ代替した	○	多量に使用していたメタノールを代替えたことで低有害化することができた。		
5	製品への環境配慮	不良品を減らし廃棄する材料を削減する	社内不良発生率 0.122%	生産件数に対し社内不良発生率を 0.121%以内とする	社内不良発生率 0.05%	○	今年度の社内不良発生率は0.05%で目標を達成することができた。今後も継続して品質向上に努めお客様の要求に応え、資源の無駄遣いを減らし廃棄物の削減に努めていく。		
6	社会貢献活動の推進	工場内緑化及び美化活動の推進	—	工場周辺の清掃活動	工場外回りの草刈り等を実施した	○	今後も継続して実施していく		

*1 電力のCO2排出係数は、東北電力の2020年度調整後排出係数 (0.457kg-CO2/kWh) を使用しました。

*2 原単位は、**実績÷売上額**で算出しています。

*3 評価欄：○は達成、×は未達

2022 年度環境経営計画の取り組み結果とその評価、次年度の取り組み内容（1/2）

NO	項目	目標	実施方法	評価	次年度の 取組内容	次年度の 取組内容
1	CO2 排出量の削減	化石燃料使用量の削減	車両整備	○	継続して実施	始業点検とエコドライブで無駄な燃料の消費と CO2 削減を心がける。
			始業点検、定期自主点検の励行	○	継続して実施	
			エコドライブの徹底（急発進、急停車しない等）	○	継続して実施	
			「燃費ノート」への記録	○	継続して実施	
			法定速度の遵守	○	継続して実施	
			毎月毎の化石燃料使用量の確認と状況報告	○	継続して実施	
		電力消費量の削減	昼休みの消灯励行	○	継続して実施	今年度は、各工場屋根に太陽光発電設備を導入・運用し工場で消費される電力の一部として利用する。また、社員一人一人の省エネ活動を推進し消費電力を抑える。
			パソコンの省電力化（帰宅の際や離席が長い場合、PC 電源 OFF）	○	継続して実施	
			LED 電球への置き換え	○	継続して実施	
			エアコン温度の管理（冷房 26℃、暖房 21℃）	○	継続して実施	
			サーキュレーター等の利用による空調効果の向上	○	継続して実施	
			ブラインド、遮光フィルム等の導入による空調負荷低減	○	継続して実施	
			定期的にエアコンフィルターの清掃	○	継続して実施	
			太陽光発電を利用	○	継続して実施	
2	廃棄物排出量の削減	紙使用量の削減	古紙回収の推進（コピー用紙回収箱、ダンボール回収置場の設置）	○	継続して実施	周知文書の電子化で紙の使用量を抑える
			裏紙使用の徹底（裏紙置場の設置）	○	継続して実施	
			商品購入時のダンボールの再利用（荷送り箱へ利用）	○	継続して実施	
			両面印刷、2 つ割り印刷を活用	○	継続して実施	
			メールでのデータ配信	○	継続して実施	
			文書の電子化	○	段階的に実施	
産業廃棄物の削減	マスクの回収箱の設置	○	継続して実施	廃棄物の分別の徹底でリサイクル率を上げる		
	木製パレットの持ち帰り推進	○	継続して実施			
	残材管理システムの構築（残材の再利用）	○	継続して実施			
	分別の徹底（置場整頓、分別名表示）	○	継続して実施			
3	水道使用量の削減	水道使用量の削減	雨水利用の推進（雨水の貯水装置で運用）	○	継続して実施	日常の節水活動で水道使用量を削減する
			日常の節水徹底	○	継続して実施	
			節水啓発 POP の掲示	○	継続して実施	
			トイレ用擬音装置の設置	○	継続して実施	
			毎月毎の水使用量の確認と状況報告	○	継続して実施	
4	化学物質使用量の管理	有害化学物質の使用量・保管量・使用方法を把握	新規購入量の把握	○	継続して実施	化学物質の適正な管理と安全衛生教育の実施
			最新版管理（SDS 入手と情報伝達）	○	継続して実施	
			保管場所の周知、管理の徹底	○	継続して実施	
5	製品への環境配慮	社内不良品率 0.14%以内	不良品を減らし、廃棄する材料を削減する	○	継続して実施	社内不良品率 0.121%以内
6	社会貢献活動の推進	工場内緑化及び美化活動などの推進	工場内緑化活動の推進	○	継続して実施	工場周辺の美化活動を行う
			工場周辺の清掃活動	○	継続して実施	

2022 年度環境経営計画の取り組み結果とその評価、次年度の取り組み内容（2/2）

	改善取組事項	結果	評価及び次年度の取り組み内容
1	二酸化炭素排出量の削減	達成	各工場での省エネ活動の取組みにより、大幅に電力使用量を削減、二酸化炭素排出量も削減でき目標を達成することができた。次年度も、エアコン、機械設備、照明などの省エネ活動に取り組んでいく。
	電力使用量の削減	達成	電気料高騰に伴い、各工場でエアコンの設定温度やオンオフの徹底、使用していない機械の電源をプラグごと抜くなど節電活動を実施した。毎年、増産により目標数値を達成することができずにいたが、日々の地道な取組みにより目標数値内で納めることができた。次年度は各工場に太陽光発電設備を導入、運用開始し、各工場で消費される電力の一部として利用する予定である。電力使用量の削減に期待したい。
	燃料消費量の削減	達成	軽油、灯油、LPG の使用量が増えたが、ガソリン使用量を大幅に削減できた為、目標を達成することができた。次年度も車両の点検整備やエコドライブで化石燃料の削減に努めていく。
2	紙の使用量	未達成	裏紙を積極的に使用したが、目標数値を達成することができなかった。文書の電子化でメールや工場設置しているモニターを使用することで、紙の使用量の削減に努めていく。
	廃棄物排出量の削減	達成	前年度まで埋立ごみとして処理していた廃プラを、再資源化にできる企業を見つけ、廃プラの分別を徹底することで再資源化し埋立ごみを減らすことができた。次年度も分別の徹底を行い、埋立ごみを減らすよう努力する。
3	水道使用量の削減	未達成	切削機械の増加に伴い、切削時に使用する水が増加した為、目標数値を達成することができなかった。機械に投入する水以外で節水できないか見直しを行い活動していく。
4	化学物質使用量の管理	達成	洗浄で使用していたメタノールを変性アルコールへ代替したことで、年間消費量 600 kg を削減することができた。今後も化学物質の適正な管理を行い有害物質の低減化に努めていく。
5	製品への環境配慮	達成	社内不良発生率 0.121% 以内の目標に対し、実績は 0.05% であった。今後も継続して製品の品質向上に努め、お客様の要求に応え、資源の無駄遣いを減らし、廃棄するプラスチック削減に努めていきたい。
6	社会貢献活動の推進	達成	工場外回りの周辺の清掃実施と、年 2 回の献血バス協力、学生の工場見学などを実施し社会貢献活動を推進した。今後も継続的に実施していく。

環境への主な取り組み（1 / 2）

■ CO2排出量の削減

昼休み時間、消灯や工作機械の電源を切ることで節電を行っている。

クールビズ・ウォームビズの推奨活動として空調の設定温度を冷房時26度以上、暖房時21度以下と定めて掲示を行い周知している。（写真左下）また、営業部門では夏季はノーネクタイでの営業を行い、製造部門では冬季にインナーを作業者全員に配布している。

第5工場、第6工場、第8工場に太陽光発電装置(出力316.1kw)を設置し、工場の電力の一部として使用している。自然エネルギーの活用によりCO2削減を行っている。（写真右下）



■ 水道使用量の削減

流し台やトイレにポップを貼り節水の啓発活動を行っている。また、製品を洗浄する際、容器に水をためて製品をまとめ洗いすることで節水を行っている。

■ エコドライブの推進

社用車の燃費効率を良くするためにエコドライブの推進を行っている。具体的な取り組みとしては燃費ノートを作成し、給油量と走行距離を記入し月毎の燃費効率を計算し営業内でそれらを共有し、同車種との比較を行ってより良い燃費効率を目指している。

環境への主な取り組み（2 / 2）

■ 廃棄物排出量の削減

材料加工後に出た残材のうち材料として再利用が不可のものや、切子など、素材別に分別を徹底し、廃棄物の再資源化に力を入れている業者に引き取りを依頼することで、産業廃棄物の削減や再生ペレットや固形燃料としての再資源化を図っている。（写真左）

古紙（使用済みコピー用紙や段ボール、新聞等）を古紙回収業者に依頼してリサイクルを行っている。また、材料の納品時の梱包材（マスキング紙やマスキングシート）を新たに梱包材の一部として再利用している。

残材管理システムを構築し効率的な残材利用を行っている。残材にナンバーを割り振り、システムに登録することで、必要な材料を効率的に探し出せるようになった。（写真右）



種類	No.	幅	長さ	種類	No.	幅	長さ
J4	1011	120	300	J4	1065	130	400
J4	1012	120	300	J1	889	230	230
J4	1010	160	240	J1	1078	90	670
J4	18	140	290	J1	1070	180	355
J4	978	80	556	J3	335	250	260
J4	977	130	350	J3	336	250	260
J1	1126	175	275	J3	337	250	260
J4	952	150	330	J3	338	250	260
J1	1137	200	255	J3	339	250	260

■ 切削油の再利用

切削をスムーズにする又は、工具の摩擦熱で樹脂材料が溶けない様冷却するなどの目的で水と水溶性切削油を混合して機械に使用している。

これらは基本的に機械内を循環しているが、切子などに付いた水溶液は切子ごと産廃となっていて、相当量が廃棄されていた。

それらを再利用するため、産廃から重しを加えて水溶液を絞り出し、分離器にかけて切子と液体を分けて液体のみを取り出し、加工機械に再投入して資源を節約している。



環境関連法規等の遵守状況確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

当社に適用される環境関連法規等の遵守状況を確認した結果、問題はありませんでした。また、これらの法規制等に関して、関係当局からの違反、指摘及び地域住民からの苦情や訴訟などありませんでした。

主な環境関連法規等

適用される法規制	遵守すべき要求事項	評価
浄化槽法	<ul style="list-style-type: none"> 年 4 回の保守点検（保守点検登録業者） 年 1 回の清掃（浄化槽清掃業者委託） 年 1 回の定期検査（指定検査機関） 	遵守
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> 産廃収集運搬・処理業者の許可確認、書面締結 産業廃棄物の保管管理（飛散・浸透防止・囲い設置） 保管場所の表示（60×60 cm） 産業廃棄物管理票の交付と管理（5 年保存） 産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出（福島県） 	遵守
フロン排出抑制法	<ul style="list-style-type: none"> 3 か月に 1 回エアコンの簡易点検、結果の記録・保存 	遵守
消防法	<ul style="list-style-type: none"> 消火設備点検 危険物の貯蔵と取扱い（指定数量 1/5 以下の貯蔵） 危険物の取扱い（有資格者、無資格者は有資格者立会いの元取り扱う） 	遵守
福島県化学物質適正管理指針	<ul style="list-style-type: none"> 第一種指定化学物質及び管理化学物質の確認 SDS の取得と社員への周知、管理の徹底 当該化学物質の使用量を記録（5 年保管） 	遵守
福島県化学物質適正管理指針実施要項	<ul style="list-style-type: none"> 化学物質使用量等総括表（様式第 2 号）提出 	遵守
福島県産業廃棄物の処理の適正化に関する条例	<ul style="list-style-type: none"> 産業廃棄物管理責任者の任命 産業廃棄物の処理について帳簿を備え、5 年間保管 	遵守

代表者による全体の評価と見直し

【実施日】2023年6月30日

今年度も昨年度同様、電気料金の高騰が続き、各部署で節電の取組を行っていただきました。また、太陽光発電設備も稼働を開始し、電気料金の削減に寄与しています。

また、産業廃棄物の分類を見直し、有価物として売却できる先を増やしたことで、処理費用を抑えることが出来ていると思います。

今後も継続して社員一丸となって環境負荷低減活動に努めていきます。